

## ローソンカップ小学生剣道大会 要項

- 1 主 催 公益財団法人鳥取県スポーツ協会
- 2 主 管 鳥取県立武道館
- 3 特別協賛 株式会社ローソン
- 4 後 援 鳥取県剣道連盟
- 5 期 日 令和5年12月17日(日)  
開場 午前8時  
受付 午前8時30分～午前9時30分(予定)
- 6 場 所 鳥取県立武道館 米子市両三柳3192-14
- 7 趣 旨 鳥取県の小学生・幼児(年長)を対象に、基本を主眼として、剣道の正しい技術習得や心身の鍛練を行うとともに、本県の将来を担う青少年の相互の親睦や健全な育成を図る。
- 8 参加資格 鳥取県内で活動している団体であること。参加する選手は、申込の際の団体名と同一の団体名が名札に記載があること。(省略名称可)
- 9 試合種目及び内容
  - (1) 団体試合
  - (2) 低学年の部 1～4年生  
(男女混合可・幼児出場可)※幼児は1チームに2名まで参加可能。
  - (3) 高学年の部 5・6年生  
(男女混合可・幼児出場不可)  
※高学年の部に、低学年(小学生に限る)が2名まで参加可能。  
ただし、低学年の部に高学年は入れない。(両方の部への重複出場はできない)
  - (4) 試合は4試合場で行う。
  - (5) 予選リーグ戦は基本判定試合及び一本勝負の総合判定試合を行う。  
決勝トーナメント戦は3本勝負とする。  
内容詳細は、別紙「試合実施要領」を参照のこと。
  - (6) 会場の密を避けるため、主道場のフロアは、選手、監督、大会役員以外は入場できないこととする。応援者は観客席で観戦をすること。  
また、選手待機所として主道場後方空きスペースには、当該試合の2試合前までのチームのみ待機。
  - (7) 試合で使用する紅白の目印は、各団体で準備すること。
- 10 参加基準
  - (1) 1チーム選手5名、補員1名、監督1名で編成する。なおチーム編成上、やむを得ず選手が5名に満たない場合、4名の時は、「先鋒」、「中堅」、「副将」、「大将」に配置し、3名の時は、「先鋒」、「中堅」、「大将」に配置すること。
  - (2) 事前に登録してある選手の変更は、当該試合の1つ前の試合までに各試合場審判主任に伝えること。また、大会開始後の事故等による欠員は補員が充たすこと。その際には、各試合場審判主任にその旨を伝えること。ただし、補員は欠員への補充のみとし、一度補充したらそれ以降の交代は認めない。

## 1.1 試合審判規則

公益財団法人全日本剣道連盟剣道試合・審判規則とその細則及び本大会の申し合わせ事項及び、感染拡大防止ガイドラインにより行う。

## 1.2 参加方法

### (1) 参加団体提出書類

参加を希望する団体は、以下の書類の提出すること。

参加申込書 ※締切 令和5年11月15日(水)

### (2) 参加料

低学年の部 3000円 高学年の部 3000円 両部門参加 6000円

※大会当日にお支払いください。

### (3) オーダー表

各団体で作成し、大会当日の受付で提出すること。

(別紙オーダー表作成について参照)

### (4) 申込先

鳥取県立武道館 〒683-0853 米子市両三柳 3192-14

担当 周藤 和樹

電話番号 (0859) 24-9300 (代表) FAX (0859) 24-9311

E-mail: budoukan@gamma.ocn.ne.jp

### (5) その他

・監督・選手・応援者の変更は、令和5年12月10日(日)まで受付。それ以降の変更は一切受け付けない。なお、欠席についてはこの限りではありません。

## 1.3 表彰

低学年の部、高学年の部、それぞれに優勝(1チーム)、2位(1チーム)、3位(2チーム)を表彰する。

優勝カップは持ち回りとし、それぞれに賞状とメダルを贈る。

※なお、優勝カップのペナントについては、優勝チームが作成すること。

## 1.4 安全対策

(1) 監督及び保護者は、試合場内外における参加者の行動に充分注意し、事故の防止に努めること。

(2) 競技中の事故については、大会本部で応急処置をするが、その後の治療は各自・各所属の団体の責任で行うこと。

(3) 参加者は各自・各団体でスポーツ安全保険等に加入して参加することが望ましい。

## 1.5 個人情報の取扱について(目的外の使用は禁じられています。)

(1) 参加申込書に記載された情報の取扱

(ア) 大会プログラムに記載。

(2) 競技結果等の取扱

(ア) 大会記録、大会報告書、当館HP等に掲載。

(イ) 報道関係機関により、新聞、雑誌等に掲載されることがある。

(3) 肖像権の取扱

(ア) 報道関係機関等が撮影した写真が新聞、雑誌、大会報告書、当館HP等で公開されることがある。

(イ) 報道関係機関が撮影した映像が中継・録画放送されることがある。

# ローソンカップ小学生剣道大会 試合実施要領

## 1. 試合方法

### (1) 予選リーグ

まず基本判定試合を先鋒から大将までおこない、続いて1本勝負を先鋒から大将までおこなう。

### (2) 決勝トーナメント

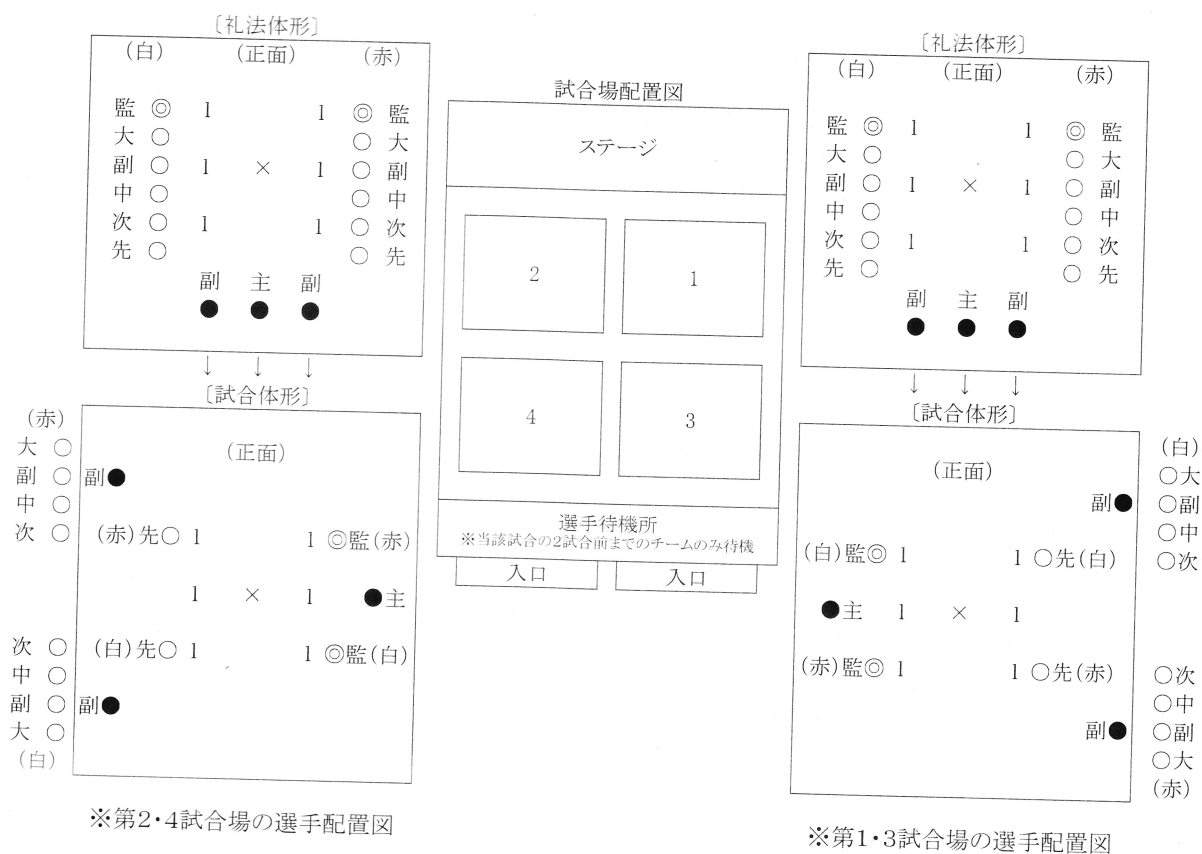
決勝トーナメントの試合方法は、3本勝負を先鋒から大将までおこなう。

## 2. 予選リーグの試合について(基本判定試合)

(1) 試合開始の相互の礼は、監督・選手全員が面、小手を着け竹刀を持っておこなう。

基本判定試合後は、監督は面を取り、試合終了の相互の礼は、そのままおこなう。

(2) 相互の礼及び試合の体形は、下記のとおりとする。



(3) 試合の開始については、監督及び選手は9歩の間合いにて立礼した後、蹲踞で待機し主審の「始め」の宣告により、**40秒間**で切り返し、打ち込み稽古(元に戻らない)を続けて行う。

(4) 基本判定試合 (内容の詳細)

○切り返し……「正面打ちから前進して左右面4本、後退して左右面5本、正面打ち」を2回繰り返す。(剣道指導要領 参照)

○打ち込み稽古……「打ち込み稽古」とは、指導者(元立ち)が与える打突の機会をとらえて打ち込んで打突の基本的な技術を体得させる稽古の方法である。従って、充実した気力で遠間から大技で、正しく・間合い・姿勢等に留意し、基本技・連続技・体当たり・引き技等を繰り返し、打突させる。

『選手は、応じ技(すり上げ、返し、打ち落とし、抜き)を必ず2本以上入れること』  
(剣道指導要領 参照)

- (5) 審判の「止め」の宣告により、試合者は速やかに開始線に戻り、判定を待つ。
- (6) 勝敗は、切り返し・打ち込み稽古の総合判定とする。  
(判定基準については、5 基本判定試合 判定基準のとおりとする。)
- (7) 審判員は、主審の「判定」宣告で勝旗を挙げる。主審は勝旗を確認し、「何対何、勝負あり」と宣告する。(判定に引き分けは認めない)

[注:主審赤旗(白旗)、副審2名白旗(赤旗)の場合であっても主審は旗を持ち替えずに申告を行い、主審は判定、掲示の確認も合わせて行う。]

### 3. 予選リーグの試合について(1本勝負)

- (1) 基本判定試合を先鋒から大将までおこなった後、1本勝負へと入る。
- (2) 1本勝負の試合時間は1分とし、勝敗の決しない場合は引き分けとする。
- (3) 勝利チームの決定は、基本判定試合、1本勝負の勝者数により決定する。  
同数、同本数の場合は、基本判定試合で勝ったチームとする。(例を参照)
- (4) リーグ戦によるチームの順位は、次の順序により決定する。

- 1.基本判定試合の勝数が多いチーム
- 2.勝数が多いチーム
- 3.負数が少ないチーム
- 4.勝者数が多いチーム
- 5.取得総本数が多いチーム

なお、1~5が同一で1・2位を決定する場合は、任意の選手による代表者戦で順位を決定する。選手は任意とする。代表戦は1本勝負、試合時間は2分、勝敗の決しない場合は、2分間の延長を区切って行い、勝敗の決するまで繰り返し行う。その際審判員は、選手の様子を見て深呼吸や水分補給等を行わせ、安全に試合進行できるよう配慮する。目安として、延長2回で深呼吸。延長4回で面をはずして水分補給及び5分間の休息をとる。その際監督は、一切指示をだしてはならない。水分補給場所については本部が指示をだす。

- (5) 試合者のどちらかが倒れた場合すぐに「やめ」をかけ、倒れた者に対する有効打突は認めない。

[例]

	基本判定試合					勝本数 — 勝者数	1本勝負					勝本数 — 勝者数	総本数 — 勝者数	勝敗
	先	次	中	副	大		先	次	中	副	大			
A道場	本	井	吉	上	山	8	本	井	吉	上	山	1	9	勝
	1	②	1	②	②	3	△		メ		△	1	4	
B道場	②	1	②	1	1	7	△	メ		コ	△	2	9	負
	瀬	重	山	周	石	2	瀬	重	山	周	石	2	4	

### 4. 決勝トーナメントの試合について(3本勝負)

- (1) 公益財団法人全日本剣道連盟 剣道試合・審判規則とその細則及び、本大会の申し合わせ事項及び、感染拡大防止ガイドラインに準ずる。
- (2) 試合開始の相互の礼は、選手全員が面、小手を着け、竹刀をもっておこなう。
- (3) 決勝トーナメントは3本勝負とし、試合時間は2分、勝敗の決しない場合は引き分けとする。
- (4) 試合者は、鏝競り合いを避けるようにする。やむを得ず鏝競り合いとなった場合は、すぐに分かれるか引き技を出す。その際掛け声は出さない。(引き技時の発声は認める) 審判員は鏝競り合いを解消しない場合、ただちに「分かれ」をかける。
- (5) チームの勝敗は勝者数、総本数により決定する。同数の場合は、代表戦をおこなう。  
代表戦は、予選リーグと同様とする。
- (6) 試合者のどちらかが倒れた場合すぐに「やめ」をかけ、倒れた者に対する有効打突は認めない。